

令和8年度事業計画

《防府地区》

【拠点共通】

[基本方針]

1. 経営に対する基本姿勢

「安定した財務基盤の確立」

- ① 目標利用率の達成をめざし、新規利用者の獲得のための「**選ばれる事業所作り**」利用率を維持・向上していくための「**データ収集システムの構築**」、現場力の向上による「**ケアの質の向上と家族や地域との信頼関係の構築**」に取り組む。
- ② 各事業所において、職員配置基準を遵守し必要な職員数を確保しながら、効率的なシフト管理により**人件費の適正化**を行う。
- ③ 助成金や補助金制度の活用と、L I F Eを活用した新たな加算の取得を推進する。

「介護現場の生産性の向上」

- ① 入所系事業所では、「**生産性向上推進体制加算Ⅱ**」を算定するため委員会を設置し、利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減を図る取り組みを実施する。
データ連携システムの導入により、給付事務作業や連携事務の負担を削減し生産性の向上を図るとともに、印刷費・郵送費・交通費等のコストを削減する。
効果測定のための業務改善記録の整備や時間外勤務の短縮を数値化する。
- ② 秋穂あかり園との統合により、利用者の確保による空床の解消と介護人材の充足を図り、**安定した施設運営**を行う。質の良いサービスを提供することにより**利用者満足度を高め、地域住民から選ばれる施設を目指す**。
- ③ 経年劣化により修繕が必要となっている建築物は、安全性を優先し必要に応じて改修工事を行う。

2. 支援に対する基本姿勢

「法人の理念の理解と実践」

- ① 法人理念の理解を形骸化させないために、各事業所において法人理念の理解と浸透のための研修を行い、日々の行動指針としての「**挨拶の徹底**」、効果測定として満足度調査を実施し、**挨拶の満足度100%**を目指す。

「協力医療機関との連携体制の強化」

- ① 系列の**協力医療機関や市内の複数の医療機関と協定書に基づき、年に1回以上緊急時等の対応方法を見直し、新興感染症発生時等の対応について協議を行う**。

「安心・安全の職場環境の整備」

- ① 法人内のカスタマハラスメントのマニュアル沿って、全職員を対象とした研修を実施し、**初期対応や報告・相談、対応の記録、組織的な対応について周知徹底する**。

3. 地域に対する基本姿勢

「地域ネットワークの構築」

- ① 地域の関係機関と共に、大道地区のまちづくりに取り組み、地域との連携を強化し、**地域のニーズに則した地域交流や地域貢献**を行う。
- ② 昨年度と同様、地域で開催される防災訓練に参加し、福祉避難所として機能できるように開設時における支援体制や受け入れの手順書を作成する。

「SNSの活用」

- ① 事業所の認知度の向上や採用活動、利用者や家族との信頼関係の構築、地域社会との連携の強化を促進するため、各事業所においてインスタグラム等を作成し、ホームページを通じ情報発信していく。

4. 福祉人材に対する基本姿勢

「新規人材の確保及びブランド力向上」

- ① 必要に応じ、随時気軽に立ち寄りやすいジョブカフェを開催したり、**ホームページや広告を活用した多様な情報発信を推進**し、就職希望者に積極的にPRしていく。

「外国人技能実習生・留学生の受け入れ」

- ① 昨年度2名、本年度も2名の外国人技能実習生を雇用し、**外国人技能実習生の定着に向け、管理団体と連携を取りながら介護職員を効率的かつ安定的に確保できる体制を構築**する
- ② 本年度より養成校の留学生を2名受け入れ、外国人技能実習生の受け入れシステムと対比しながら、その**メリット・デメリットを検証**していく。

「メンター制度の導入」

- ① 人材育成担当者を配し、新たな教育システムに基づき新規採用職員の人材育成に取り組む。

「マネジメントできる職員の育成」

- ① 福祉系大学の実習を受け入れ採用に繋げ、将来、事業運営について中核的役割を担える職員を育成する新たなプログラムを作成・活用してく。

【特別養護老人ホーム防府あかり園】

- ・科学的介護情報システム（LIFE）の科学的介護推進体制加算を1月から算定開始して、フィードバック情報を活用したPDCAサイクルのケアマネジメントの一連の流れを定着させる。
- ・経験してきた感染症（新型コロナウイルスやインフルエンザ）以外の“結核”や“疥癬”など、ほとんど**経験値が無い感染症に対して**、協力医療機関から講師を招いて研修とシミュレーションを行い、**迅速な対応が出来るように感染症対策をする**。
- ・昨年度から**1年間外国人技能実習生の受け入れを開始しての学びや築きを、外部研修で研究発表する**。この振り返りの機会を得た気付きや反省を、実習生・受け入れる側と相互がプラス作用となるように、今後も受け入れる外国人技能実習生にも活かしていく

【防府あかり園デイサービスセンター】

- ・利用率を上げ収支を安定させるため、**平日の利用者数を 30 名以上確保する。**
- ・**利用者満足度の向上を目指し**令和 7 年度のアンケート調査結果を踏まえ、利用者のニーズに沿った**アクティビティの充実、季節ごとの行事の開催**、利用者の嗜好に合わせた**喫茶の提供、積極的なボランティアの活用**に取り組む。
- ・**情報の発信力を強化**するため、毎月ホームページを更新、居宅介護支援事業所へ訪問し活動報告書を配布、家族に対しても個別の活動報告書を配布、及びパンフレットの更新を行う。

【防府あかり園在宅介護支援センター】

- ・現在の人員体制を堅持して特定事業所加算Ⅲを算定し、年間を通して**毎月 100 件以上の介護給付請求を目指す**とともに、職員の交代を円滑に行い業務に支障がでないように運営する。
- ・事業所のケアマネジメントの質を維持するため、要件を満たしている職員は主任介護支援専門員更新研修を受講する。
- ・ホームページ上で定期的に情報を発信し、事業所としての**広報活動を積極的に行い、新規利用者を増やす。**

【訪問介護事業所】

- ・利用者のケアニーズに合わせた**効率的なシフト管理を行い、職員の働きやすさと人件費の適正化を両立させる。**
- ・ケアプランデータ連携システムを導入することにより、業務の負担を軽減し、職員の**研修の機会を増やし専門性の向上に取り組む。**

【グループホーム防府あかり園】

- ・季節の行事や外出支援、レクリエーションの充実を図り、家族参加の行事の開催、地域住民との交流の機会を増やし、**入居者の楽しみと生活の活性化に繋げる。**
- ・**職場環境の改善を図り、時間外勤務の短縮と年次有給休暇の取得率アップ**により、職員の安全確保と健康の保持・増進を推進する。

【防府あかり園グループホームいちえ】

- ・業務改善（書類様式関係の見直し、マニュアルやタイムスケジュールの見直し、労働環境の見直し）に取り組み、**業務の効率化を促進する。**
- ・外部研修への積極的な参加と内部研修の充実を図り、専門的な知識と技術・態度を学び**職員のケアの質の向上に取り組む。**

【防府西包括支援センター】

- ・高齢者だけでなく、地域住民、地域の介護支援専門員が抱える様々な問題や課題の解決に向けた**地域ケア会議**を年5回開催する。
- ・三職種と生活支援コーディネーター、自立支援コーディネーター、プランナーが協働して重度化を抑制し、**三職種120件、プランナーの請求件数（常勤70件、パート50件）の維持**を目標とし、安定した事業運営を行う。
- ・ケアプランデータ連携システムを活用し、業務の効率化や経費の削減に繋げる。

【防府温泉ホーム】

- ・ホームページに加えて、若い世代が情報を入手しやすいツールとして、InstagramやXといったSNSを活用し、**リアルタイムな情報発信**を行う。
- ・ふれあい・いきいきサロンの内容を見直し、**入居者の地域活動への参加機会を増やし**入居者自身が地域住民の一員であることを自覚することにより**社会参加を促進する**。
- ・認知症への理解を深め、入居者同士が助け合い・支え合う環境の整備を行い、誰もが安心して生活できる施設運営を行う。

《字部地区》

【拠点共通】

[基本方針]

1. 経営に対する基本姿勢

全事業で**利用者数前年度比増**に取り組む。生産性向上については委員会を中心に**効果検証・課題抽出**を行う。特に前年度までに導入したテクノロジー機器やケアプランデータ連携システムについては効果的な運用を常に見直し、安定した事業運営につなげる。

- ① 全事業において新規利用者数、延べ利用者数について対前年比増を目標とする。
- ② 業者による伴走支援（見守りセンサー機器）の活用や時間外勤務の短縮のために勤務時間の集計を行うなど、**分析や効果検証に関する資料を整える**。
- ③ 各事業（部門）担当者と事業運営に関するすり合わせ会議、全事業に共通する取り組みについては合同の勉強会を実施するなど課題の整理を行う。

2. 支援に対する基本姿勢

法人理念を徹底、利用者本位の再確認をすると共に、各種ハラスメント対策についても学び、**安心・安全な職場環境整備**に取り組む。緊急時、感染症等のリスク対応についてはこれまでの実践を集積し、協力病院とも継続的に連携する。

- ① 利用者アンケートによるニーズ把握調査を実施する。
- ② 職業倫理、高齢者虐待防止に関する研修を行うとともに、各種ハラスメント対策に関する学習の機会をつくる。

- ③ 月1回の協力病院との連携会議を継続的に開催するとともに、感染症対策（認定看護師との連携）や緊急時の協力体制を維持する。

3. 地域社会に対する基本姿勢

地域貢献として地域健康教室の継続実施や買い物支援事業への参画、地元西岐波地区のイベント参加による**地域との交流・協働**を行う。また、**人が来る・集まる中核施設**を目指し、新しい情報発信手段の準備を行う。

- ① 周辺9自治会で実施している地域健康教室についてキーパーソンと地域課題について話し合うことを盛り込みながら実施する。また、買い物支援事業への参画を継続する。
- ② 地域行事である西岐波まつりでのテナント出店、文化祭への作品展示、地域防災訓練等の行事に参加する。また、当拠点のイベント「ひなもん展示会」では地域からの来場者を増やすための創意、工夫を行う。
- ③ ホームページ活動報告を年間30件以上掲載すると共に、Instagram発信の試作を行い、新たな情報発信の準備をする。

4. 福祉人材に対する基本姿勢

多様な人材を確保するための求人活動及び人材育成、専門性の向上について、「**定着**」、「**働き甲斐のある組織風土づくり**」に着眼して取り組む。

- ① 新卒採用のための学校訪問、ハローワーク等での会社説明会、校内進路ダイダンスへの参加、オンラインを含めたジョブカフェを実施する。
- ② 前年度の2名に引き続き今年度は4名の外国人技能実習生を受入れることから、**介護技能実習指導員の増員**（要講習）、生活の準備支援、実習指導の充実、ユニットでの適正配置を計画的に行う。
- ③ 法人研修、外部研修への参加及び施設内研修を工夫し、職員が反復学習、継続学習できるようにする。

【特別養護老人ホーム 宇部あかり園】

- ① 特養・ショートステイの両方において、**申込み相談・受付・アセスメント調査・入所案内の一連の流れを迅速**に行う。また、市内病院の退院支援室等を月1回程度訪問し、紹介件数を増やす。
- ② 施設内研修においては、パート職員が参加しやすい工夫や褥瘡・口腔ケア等の実技研修の回数を増やす。研修のアンケート結果を集計・分析し、研修参加者が増えるようにする。
- ③ 外国人技能実習生については、**文化の違いを施設イベントに盛り込むことや、一緒に介護について学ぶ姿勢でお互いを高め合っていく**ことを心がけ、実習（勤務）指導及び生活の支援を行う。
- ④ 介護業務についてわかりやすい役割分担書、手順書を作成する。（テクノロジー使用法を含む）

【宇部あかり園 デイサービスセンター】

- ① 居宅介護支援事業所への訪問を行い、趣味や特技をいかした活動のプログラムやニーズを把握し、利用者の満足度を高め受け入れを行う。現利用者の利用回数増の提案やキャンセル時の振替利用の促進等を行う。
- ② デイサービス会議時に感染症や自然災害等に関する対応方法を確認し、継続して業務ができるようにする。また、入浴介助に関わる研修等を実施する。
- ③ 科学的介護情報システム（L I F E）フィードバックを基に**利用者特性の把握、介護サービスの向上**に努める。また、ケアプランデータ連携システムを導入することで業務の効率化を図る。

【宇部あかり園 訪問介護事業所】

- ① 毎月のミーティング時に手順や対応方法の見直し、小さな変化の報告・共有を行い、**ヘルパー間のサービスの質を均一化する**。
- ② 感染症や災害等の緊急時にも安定したサービス提供ができるよう定期的な訓練と体制整備を継続し対応力を向上させる。
- ③ 関係機関との連携を強化し、予防・介護問わず**新規利用者を確保**する。

【宇部あかり園 在宅介護支援センター】

- ① 介護支援専門員の専門性向上と自己覚知を促進するために、地域の研修会や勉強会に積極的に参加する。援助者自身が背負いがちな重層的なケアに対し、適切な調整力を身につける。
- ② 多職種や他事業所と事例検討会（2ヶ月に1回程度）を行う中で、主任介護支援専門員の**ファシリテート、コーディネート能力**を高める。
- ③ I C Tツールを活用することで業務処理速度向上、予定の見える化等シームレスな情報共有手段を模索する。それにより、業務の優先順位を明確化することにより、一人当たりの担当件数を増やす。

【宇部温泉ホーム】

- ① 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、病院等への訪問、**施設PR**を毎月定期的に行う。特養相談員と同行訪問するなど**拠点施設・サービスの説明等**も行う。
- ② 老いのお楽しみ講座、歌声広場、わいわい倶楽部（健康体操）等の生きがい支援や日常生活を支える移動販売やショッピング支援及び介護保険サービスとの連携で、一人ひとりが当ホームで**長く生活が継続できる個別支援計画**を作成する。
- ③ 感染症対策（防護具着脱や嘔吐物処理の実技訓練）研修に積極的に参加し、技術・知識を向上させる。

【宇部市東部第2地域包括支援センター】

- ① 高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自立した生活を維持・継続できるように、**H O P E（宇部市短期集中予防サービス）事業の推進**を行うと共に、介護予防教室や講義、年3回の広報誌発行、自立支援地域個別ケア会議を継続実施する。
- ② 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）のために、認知症サポーター養成講座の開催や認知症カフェの開催支援を行う。
- ③ 複合化・複雑化する課題を抱えた課題が多いことから、アウトリーチ等を通じた継続的支援、社会参加に向けた支援、地域資源の発掘を地域と協働で行う。

《宇部西あかり苑》

〔基本方針〕

1. 経営に対する基本姿勢

テクノロジーを活用し介護現場の生産性を向上するため、介護記録ソフトの導入やWi-Fi環境を整え、協力医療機関の電子カルテとどのように連携を図るか検討してきた。令和8年度から本格的な運用となり、導入後発生する課題を共有し早急な解決を図ることで利用者のサービス向上につなげ、利用者とかかわる機会を増やし体調管理を行うことで利用率、収益の安定を図る。

① 安定した財務基盤の確保

- ・申込者に対し随時直接電話にて空床状況を伝え、早い段階で入所調整を実施することで平均空床日数10日以内を達成する。
- ・待機者獲得のため、宇部市内や山陽小野田市の居宅介護事業所を訪問し申込につなげる。
- ・新規加算（科学的介護推進体制加算・生産性向上連携加算Ⅱ・個別機能訓練加算Ⅱ）を取得する。

② 介護現場の生産性向上

- ・**生産性向上委員会にて導入後の課題を分析し、業務の効率化を行うことで残業時間の削減を行う。**

2. 支援に対する基本姿勢

開設当初から設置している機器の老朽化に伴い、部品供給が終了した製品についてメンテナンスや入替が必要になっていることから機器の入替を行い入居者に安心して生活していただける環境を整える。また入居者の急変時や感染症蔓延時、非常災害時にサービス提供が停止してしまうことがないようにFITタウンでのBCPの確認、遂行体制を整理する。

① 協力医療機関との連携体制強化

- ・円滑な医療・介護連携を図るため、夜間等の急変時におけるマニュアルや必要な引継ぎ事項について協力医療機関の看護部長や師長と連携を図り見直しを行う。

② 安心・安全の環境整備

- ・ 非常災害や感染症蔓延に備え、通常の食事提供を停止、**弁当を注文することで生じる刻みやお粥などに対応できる人員や業務体制構築のための訓練を実施する。**

③ 老朽化に伴う修繕・入替計画の作成

- ・ 部品供給が停止している福祉機器の故障に備え、機器の修繕・入替計画を作成し計画的に導入を行う。

3. 地域社会に対する基本姿勢

地域の福祉に対する意識向上を目的に毎年西宇部小学校へ福祉教育を実施している。他の小中高等学校へ福祉教育開催を試み、地域と合同で災害対策等の学習会を開催することで地域ネットワークを拡大する。

① 地域力の向上支援

- ・ 宇部西小学校への福祉教育を継続しながら、他の小中高校へも連携の働きかけを行い、地域福祉の推進を行う。
- ・ **近隣自治会と合同で防災研修会を開催し、非常災害時の役割の理解と地域との連携を強化する。**

② SNS の活用

- ・ 広報委員会で企画・立案した動画をInstagramで発信する。

4. 福祉人材に対する基本姿勢

当苑に勤務する職員は宇部西高等学校の卒業生が多く、令和7年度で閉校することで新たな学校とのつながりを模索する必要がある。将来リーダー等の中核を担う人材の獲得に向けて高等や大学と連携を図りつつ、介護経験のない他業種の方でも社会経験豊富な人材獲得に向けて就職説明会等でPRし職場見学をつなげる。またメンター・エルダー制度を深化し人材定着を図る。

① 積極的な実習生・見学者の受け入れ

- ・ 幅広い人材の受け入れを行うため、介護経験の有無を問わず介護に興味がある方に対し積極的な職場見学を実施する。

② 人材育成に向けた取り組みの強化

- ・ 法人内研修で学んだことを継続するため、自施設で振り返りの研修を実施し、知識・技術のスキルアップを行う。

③ **メンター・エルダー制度の取り組み強化**

- ・ エルダーを担当している職員と定期的な面談を行い、エルダー担当者の負担軽減を図るとともに新人職員の状況についても情報共有を図る。

《山口地区》

【拠点共通】

[基本方針]

1. 経営に関する基本姿勢

法人経営会議の議論を踏まえ、施設の有効活用を推進し、効率的に業務を執行する。

- ・地域の福祉医療専門機関との連携や民生委員や社協等への情報提供に心がけ、ホームページや各種行事を通じ、施設の特徴を地域住民に発信し、その有効活用を促進。
- ・待機者の現状把握、円滑な入所調整を行い、**入所系施設（特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、ケアハウス）では、実利用率95%（ショートステイ85%）を目標。**
- ・見学や体験利用によるPR、短時間利用の受け入れを促進し、**通所サービスでは、利用者10%増。**
- ・介護現場の生産性向上への取り組みの推進（各種機器・業者の選定、補助金活用のための情報収集）、

各施設、機能訓練の充実と**加算の取得。**

- ・高騰する水道光熱費をはじめ、不要不急の支出の抑制、県市等の補助事業の活用、事務文書の簡素化、ICTの導入等、経費の削減と事務事業の効率化の推進。

2. 支援に対する基本姿勢

複合的な高齢者施設として、時代の要請や施設の特性、施設間の連携を踏まえたサービスを提供する。

- ① 法人の理念、5つの運営方針を再度周知し、すべての職員が共通認識のもと、**専門職としての業務を遂行できる就業環境を整備する。**

- ② **ICTの活用の促進。**

特養・有料にて、センサー等見守り機器の導入を実施、それに伴い**生産性向上推進体制加算Ⅰの取得**に繋げる。グループホーム、デイサービス等についても介護記録ソフト等必要なICT機器の導入を検討し、**請求ソフトの一本化**につなげていく。（特養・有料…ほのぼのへ移行、それ以外ウィンケア）

- ③ 高齢弱者を抱える集団施設として、深刻な感染症や増加する大規模災害等に備えた危機管理体制を強化しつつ、生活の質の確保のために外食支援、家族対応の外食・外泊支援の推進を検討。
- ④ 事業継続計画、感染時の対応マニュアルを随時、見直し改定。
- ⑤ 定期的な避難訓練による自然災害時の迅速な処理体制の構築。
- ⑥ 事故や苦情・要望に対する真摯かつ迅速な対応と、利用者・家族との信頼関係の構築。
- ⑦ 日常的に家族との連絡を密に行い、**利用者本位の支援を実施。**
- ⑧ 各施設設備老朽化への対応。（**ケアハウス新館エレベーター・特養の冷暖房設備の更新等の調整**）

3. 地域社会に対する基本姿勢

社会福祉施設としての役割を自覚し、地域の感染症の動向をみながら、地域との交流、**地域貢献の取り組み**を推進。

- ① 生活教室の開催、小学校での介護体験授業の講師派遣、保育園との交流等を通じた地域貢献活動の展開。
- ② 職場体験、ボランティアや実習生等の受け入れなど地域との交流の促進。
- ③ 資源回収や河川清掃、交通安全運動への参加など地域の一員としての貢献活動の推進。
- ④ 市の防災危機管理課や地域と連携し、**福祉避難所として機能できる体制を整備**。

4. 福祉人材に対する基本姿勢

様々なルート、方法を講じ、職員の確保を積極的に行う、また**人材を大切に**し、**職員の能力が最大限に発揮できる職場づくり**を展開。

- ① 求める職員像を明確にし、的確な情報発信、発信手段の検討を行い雇用につなげる。
- ② 各会議・メンター研修の講師役を担ってもらう等を通して**中核となる職員（リーダー、副主任、主任）の育成**。
- ③ ストレスチェックの活用、育成面談の定期的な実施。
- ④ 施設内で OJT の確立やオンラインを活用した外部研修会、さらには資格取得への支援。

【特別養護老人ホーム山口あかり園】

- ・全職種で業務の課題抽出を行い、ICT導入等を活用することで効率的な職場環境を構築する。
- ・**「ユニットケア」を再認識し、全職種で連携・協力**を行うことで、ご利用者個々の生活に合った充実したケアを提供する。

【山口あかり園デイサービスセンター】

- ・業務の見直しを継続して行い、多様化するニーズ（脳活性活動／機能訓練等）に応えていけるように体制を整える。
- ・地域のサロン活動への講師派遣等を通して、ニーズ等の情報収集や地域との関係性を構築する。

【山口温泉ホーム】

- ・**令和9年度相互研修会での発表準備**。
- ・適切な感染予防対策の継続と、幅広い年齢層や年々状態変化する入居者の生活のニーズに沿った支援につながる各種余暇活動「いきいき百歳体操」や「生活教室」の定期開催、趣味活動の提示、外出行事の拡充。
- ・月一度の郷土料理やお茶会、季節料理「鍋献立」の提供を継続する。

【グループホーム山口あかり園】

- ・利用者の個々の認知症状に合わせた個別ケアの実施、対応の標準化を図り、職員の認知症介護の質の向上を目指す。
- ・園内での行事や個別の余暇活動の充実と感染状況に留意した外出行事を継続して行う。

【山口あかり園居宅介護支援事業所】

- ・**ケアプランデータ連携システムを導入**しデータ連携を段階的に切り替えていく。
- ・公正中立で質の高いケアマネジメントの推進と、安定した運営が継続できるよう担当件数月160件を確保する。
- ・居宅会議や複数担当制により、協力連携体制の強化・事業所全体での問題解決を目指す。

【山口あかり園訪問介護事業所】

- ・ロールプレイ研修及び同行訪問によるOJTを実施し、職員の実務対応力の向上を目指す。あわせて、急変時等を想定した実地訓練を行い、対応手順の確認や振り返りを行う。

【有料老人ホーム山口あかり苑】

- ・施設の理念に立ち返りながら**ユニットケアの理解を深め、取り組んで**いく。
- ・業務改善やICT化を進めていき、効率的な職場環境を作り、入居者一人ひとりに合わせた、質の高いケアを提供する。

【山口市鴻南地域包括支援センター】

- ・毎週の定例会議（介護予防会議・地域支援会議）、訪問複数対応等で個別支援・課題解決に向けたケース検討での職員の資質・アセスメント力の向上を目指す。
- ・介護予防の推進に向け、フレイル予防の啓発、百歳体操などの通いの場へのサポートの継続、介護予防出張講座のみならず普及啓発の機会を見つけ介入していく。
- ・「認知症サポーター養成講座」の開催・回数の拡充、オレンジサポーターとの連携も継続していく。

《秋穂地区》

【拠点共通】

[基本方針]

1. 経営に対する基本姿勢

① 組織体制の見直し・整備

- ・特別養護老人ホーム秋穂あかり園の特別養護老人ホーム防府あかり園との統合に伴い、「**山口市養護老人ホーム秋楽園**」・「**山口市秋穂デイサービスセンター**」・「**秋穂温泉ホーム**」・「**グループホーム秋穂あかり園**」の**組織管理が一元化**されるため、新たな組織としてスムーズな運営ができるように体制を整備していく。
- ・**生産性の向上**のため、法令順守のもと、より効率的に運営できるように、業務内容・職員体制等の見直しを行う。
- ・災害時・感染症発生時の業務継続計画の見直しを行うとともに、訓練を実施する。

② 安定した経営基盤の構築

- ・行政、居宅支援事業所、包括支援センター、市内養護老人ホーム等と連携し、**養護老人ホーム月初入所者 85 名以上、デイサービス 1 日平均 26 名、ケアハウス月初入所者 50 名、グループホーム稼働 98 %**を確保する。
- ・指定管理料・措置費単価・各種加算の適正化に向けて、行政との協議を継続する。
- ・介護保険事業について、新たな加算を算定する。
- ・補助金・支援金等を積極的に活用する。
- ・運営コストの見直しを行い、前年比 2 %の支出を抑制する。

2. 支援に対する基本姿勢

① 法人理念の理解と実践

- ・対人関係の基本である挨拶を徹底し、満足度調査について、前年度を上回る評価を得る。

② 医療体制の強化

- ・**嘱託医、協力医療機関や近隣の医療機関と連携**し、より充実した医療体制を整える。

③ 自立支援・個別性を重視したサービスの提供

- ・併設、隣接事業所の連携を強化し、サービスの質を高めていく。

3. 地域社会に対する基本姿勢

① 地域ネットワークの構築

- ・地域行事への参加・交流事業等を積極的に行う。
- ・**認知症カフェ**である「**カフェあいお**」を**継続**していくとともに、小中学校で行われる福祉教育等へ積極的に協力する。
- ・民生委員、福祉員との連携を強化するため、施設見学会や事業説明会を年 2 回以上実施する。

② 積極的な情報発信

- ・ホームページを年 70 回以上・動画を 1 回以上更新する。

- ・ **Instagram**を随時更新し情報発信の迅速化を行う。

4. 福祉人材に対する基本姿勢

① 職員の資質向上

- ・ 職場内研修を各事業所年9回以上計画的に行うとともに、内容を充実させる。
- ・ **中核となる職員（生活相談員・主任）の育成**を行う。

② 人材の確保

- ・ 教育機関への働きかけや就職面接会等への参加を積極的に行うとともに、施設主導にてのイベントなどを開催し、人材の確保につなげる。
- ・ 業務の効率化・働きやすい職場環境づくりに取り組み、職員を定着させる。

【山口市養護老人ホーム秋楽園】

- ・ **山口市からの指定管理の最終年度**となるため、引き続き更新継続についての調整を行う。
- ・ 「**ショートステイ事業**」・「**契約入所**」について、年度内に実施する。
- ・ ADL低下予防・QOL向上に資するプログラムを深化させる。
- ・ 令和8年度県老施協相互研修会分科会にて発表する。

【山口市秋穂デイサービスセンター】

- ・ **介護予防・日常生活支援総合事業**実施についての見直し・検討を行う。
- ・ 作業療法士による機能訓練プログラムを向上させ、より充実した訓練にする。
- ・ 地域交流を深め、ボランティア活動等を積極的に受け入れ、行事等のプログラムを充実させる。
- ・ 利用者の能力に合わせたプログラムの見直しを行い、**クラブ活動・レク活動**を充実させる。

【グループホーム秋穂あかり園】

- ・ **生産性向上推進体制加算Ⅱ**を算定し、ケアの効率化・質の確保・職員の負担軽減を行う。
- ・ 外出行事に取り組み、行動範囲を広げていく。
- ・ 医療機関との連携を密にし、健康状態を維持することにより利用率向上につなげる。
- ・ **認知症カフェ「カフェあいお」**の内容を充実させ、地域からの信頼を高める。

【秋穂温泉ホーム】

- ・ 様々な社会資源を活用し、施設内外の活動を充実させる。
- ・ 懇談会等により利用者の希望を把握し、**利用者の声を活かした**生きがい支援を行っていく。
- ・ 食事に関するアンケートにより食事の質を担保し付加価値を高める。
- ・ 利用者の**認知症カフェ「カフェあいお」**への参加を促し、地域とのつながりを深めていく。

《聖和苑地区》

【拠点共通】

[基本方針]

1. 経営に対する基本姿勢

① 改築・修繕等、施設整備

- ・数年後の建替え等を視野に収支の安定を目指すと共に、**直近で建替え等を行った施設を訪問、見学**し情報収集を行っていく。
- ・事務処理能力の向上の為、各事業所のパソコンの記憶装置をハードディスクから SSD に随時変更していく。

2. 支援に対する基本姿勢

① 人権の尊重

- ・職員の虐待に対する意識向上の為、**2ヶ月に1回グループ討議を開催**し、不適切な対応にならないよう相互確認を行う。

② 安心・安全の環境整備

- ・カスタマーハラスメントを含めたハラスメントの防止、対応策を適切に講じる。

3. 地域社会に対する基本姿勢

① 地域共生社会の推進

- ・「元気いきいき広場」への参加は継続しつつ、**地区内主催の「サロン」等へ講師等で新規参加**を検討していく。
- ・鑄銭司地区運動会や文化祭など、地域の行事には積極的に参加、同時に**施設行事などへのボランティアの受け入れ**を活発に行い、地域との交流を促進する。

4. 福祉人材に対する基本姿勢

① 人材の定着に向けた取り組みの強化

- ・ワークライフバランスに配慮した働きやすい職場環境作りを推進する為、まずは**介護職員の月平均残業時間を5時間以内**とする。

② 人材の育成に向けた取り組みの強化

- ・「法人の理念と運営方針」で掲げられた価値観、存在意義等を職員の共通目的として周知をする。

【救護施設聖和苑】

- ・**精神保健福祉士の資格を有する職員を新たに配置**し、福祉事務所、精神科病院、保健所、他法施設等との連携を強化する。
- ・給食部門において「リクエストメニュー」を始める。食堂に要望箱を設置し、**利用者からの要望を取り入れ、その都度献立に反映**していく。

【グループホームひまわり荘】

- ・ **日中活動事業所や職場等への連絡や訪問**を実施し、職員間で情報の共有・調整を行い、必要な支援を行う。
- ・ **定期的に虐待防止委員会を開催**し、ご利用者の人権と尊厳を尊重した支援サービスの提供に努めるとともに、ご利用者の虐待防止 に対する取り組みを更に推進します。

【ワークハウスすぜんじ】

- ・報酬改定により令和7年度に取得していた基本報酬単価の報酬区分が、平均工賃月額35,000円以上から3,000円引き上げられた為、**平均工賃月額38,000円以上を死守**する。
- ・就労移行への意欲を引き出す新たな取組として、**鋳銭司ふるさと祭りへ利用者と共に参加し、販売実習に挑戦**する。

【地域活動支援センターやまぐち】

- ・他の相談支援事業との情報共有を行い、**1ヶ月40件平均の計画相談に対応**する。
- ・スポーツや物づくりを通して、事業所や利用者間の交流を活性化させ、一人一人が楽しんで参加できるような居場所づくりを行う。又、Instagram等を活用してPR活動にも力を入れる。